



Annual Report 2017

活動報告書 2017.4-2018.3

03 ごあいさつ

04 相馬市長・大槌町長・駒ヶ根市長・東京芸術劇場館長より

06 エル・システムジャパンの理念

07 組織概要

2018年3月末における活動状況

08 相馬市

10 大槌町

11 駒ヶ根市

12 東京

14 2017年度のハイライト

18 JR東日本発足30周年記念コンサート エキコン@TOKYO STATION

19 “エル・システムジャパン”オーケストラフェスティバル

20 エル・システム・フェスティバル2017 / 『エル・システム ガラコンサート』

22 エル・システム 子ども音楽祭2017 in 駒ヶ根

25 大槌子どもオーケストラ クリスマスコンサート

26 第4回エル・システム子ども音楽祭 in 相馬

28 音楽監督 & スペシャルアドバイザーからの報告

32 現場の声

34 外部評価調査報告

36 財務報告

38 メディア掲載一覧

40 ご協力いただいたアーティストの皆さま

42 ご支援いただいた皆さま

44 楽器を寄贈してくださった皆さま

※学年・年齢の表記は当時のものです

ごあいさつ

ちいさな音楽家たちへの日頃からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

2018年3月24日、エル・システムの創設者、ホセ・アントニオ・アブレウ博士が亡くなられました。

私は、2012年にスコットランド・スターリングでのロンドン五輪文化芸術プログラム、2013年のユース・オーケストラ・オブ・カラカスの来日公演時(下の写真)、そして、2014年のベネズエラ訪問時にアブレウ博士にお目にかかる機会に恵まれました。

その中でも、2012年の相馬で活動を立ち上げた直後にスコットランドで初めてお目にかかった時の博士の言葉が心に強く残っています。

「東日本大震災で被災し、ご自身も苦難に直面しているにも関わらず、相馬のエル・システムプロジェクトでバイオリン指導をされている現場の先生に、私から感謝の気持ちを伝えて欲しい。」

トリシア・タンストール著、原賀真紀子訳の「Changing Lives(邦題:世界でいちばん貧しくて美しいオーケストラ、東洋経済新報社)には、なぜアブレウ博士がエル・システムを始めようと思ったのかが記されています。中でも印象的なのは、少年期に出会ったピアノの先生、ドラリーサ・ヒメネスさんの話。「広い部屋に7台のピアノを並べて、皆でモーツァルトの交響曲41番「ジュピター」を合奏させてくれた。いつも、お互いのため、誰かのため演奏していた。とても楽しい時間だった。急かし、厳しさを求める先生は、私の周りには居なかった。」

多くの問題が山積しているベネスエラ。そこで活動をするエル・システムも、色々と困難を抱えていると思います。しかし、愛のある熱心な指導者のもとで学ぶ約100万人の子どもたちは知っています。美しい音楽を仲間と奏で、歌うことの喜びを。誰もが必要とされていて、誰かのために存在していることを。アブレウ博士は、この崇高で美しい理想を目指すことの意味を、世界中に人々に気付かせてくれました。

生前は、睡眠時間4時間と言われるほど、毎日猛烈に働いておられたアブレウ博士。「あの世に行ったら、ゆっくり休めるから」というのが口癖だったようです。博士の意志は、世界中におけるエル・システムの取組に関わる大人と子どもが引き継いで行きます。

Tocar, cantar y luchar

奏で、歌い、そして、困難を乗り越えろ
～エル・システムのモットー～



エル・システムジャパン 代表理事

菊川 穰

【菊川 穰 略歴】

1971年神戸生まれ。95年ロンドン大学ユニバーシティカレッジ卒業。96年同大学教育研究所政策研究修士課程終了。その後、98年よりユネスコ 南アフリカ事務所に教育担当官。2000年よりユニセフ レソト、エリトリア事務所において、青少年、子ども保護、およびエイズ分野を担当。07年より日本ユニセフ協会にて勤務。11年3月より東日本大震災緊急支援本部チーフコーディネーターとして支援活動を指揮。12年3月に一般社団法人エル・システムジャパンを設立、代表理事に就任。



相馬市長
立谷秀清

エル・システムジャパンの皆様には、相馬の子ども達の健やかな成長を、熱い情熱と深い愛情で支えていただいております。そして国内外問わず、多くの皆様からも温かなご支援を賜っております。皆様の活動に敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

相馬でエル・システムジャパンの活動が始まってから7年目を迎えました。これまで2,000人を超える相馬の子ども達が、音楽を通した多様な体験と多くの方々との交流をはかることができました。お陰様で、子ども達は幅広い年齢層の仲間と一緒に歌い、楽器を奏で、共に成長する喜びを楽しみながら、元気に成長しております。最近では学校生活などにおいても、エル・システムジャパンで活動する子ども達の活躍を耳にする機会が増えました。学習面はもとより、リーダーシップの発揮、積極的な発言など、考える力や自己表現力の向上がみられるようになりました。これは、「音楽を通して生きる力を育む」ことを目指す活動の成果であり、子ども達の自己肯定感の形成だけではなく、子ども達のご家族や地域皆様の一体感につながっている様に感じております。子ども達が健やかに、そしてたくましく成長する姿は、私たち地域の大人にとって何よりの励みであり、東日本大震災からの復興に取り組む相馬市の大きな力となっております。

これからも多くの皆様からお力添えをいただきながら、相馬の宝である子ども達の生きる力を育てまいります。



大槌町長
平野公三

東日本大震災津波から8年目を迎えました。震災で多大な損害を被った本町ですが、中心市街地は道路の整備が進み、住宅や店舗の再建も加速しています。しかし、未だ仮設住宅での生活を余儀なくされている子どもも多くおり、放課後の学習支援・居場所の確保を必要としております。

このような中、4年前にエル・システムジャパン様と協定を交わし、音楽活動に取り組んでいる子どもたちを中心に、人的、物的支援をいただき、音楽活動を通して心のケアを行っていただいております。

昨年5月に行われた放課後活動拠点施設「大槌町こども教育センター」の落成式では、エル・システムジャパン様にはとても素晴らしいフルートとバイオリンの演奏をしていただきました。木造の建物に響き渡る音色に、子どもたちがこのような体験をここ大槌でさせていただいていることに心から感激いたしました。さらに、大槌の子どもたちが福島や東京などでプロの演奏家に交じって演奏する機会をいただき、全員が目を輝かせ堂々と演奏して帰ってきたと伺い、子どもたちの成長と可能性を実感しているところであります。

これからも大槌町のよきパートナーとして、子どもたちの豊かな育ちと確かな学びの保障に継続して御支援御協力くださいますようお願いいたします。



駒ヶ根市長
杉本幸治

駒ヶ根市は、昨年度から、音楽プログラム「エル・システム」を活用した、「音楽を通じて生きる力をはぐくむ事業」に取り組んでいます。昨年3月23日には、イシカワベネズエラ大使様の立会いのもと、一般社団法人エル・システムジャパン様との事業協力に関する協定書調印を行うことができ、大変うれしく感謝申し上げます。

この事業の目的は、子どもたちへの音楽教育を通じて、忍耐力や協調性、自己表現力などの社会性を身に付けることにあります。具体的な事業内容は、小学生の弦楽教室の開催などを通じて音楽活動を行い、昨年10月24日にはベネズエラの音楽家などとも連携した「エル・システム 子ども音楽祭2017in 駒ヶ根」を開催し練習の成果を発表することができました。今後の展開として、5年後には「駒ヶ根子どもオーケストラ」の創設を目指したいと考えています。

今後も、引き続きエル・システムジャパンの皆様、ベネズエラ大使様はじめ大使館の皆様、全国でこの事業をご支援いただいている皆様をはじめ、すべての関係者の皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



東京芸術劇場館長
荻田伍

東京芸術劇場は、ベネズエラで生まれた音楽教育システム「エル・システム」の理念に共感し、2008年グスターボ・ドゥグメル率いるシモン・ボリバル交響楽団の来日公演をスタートに、2013年、2015年、2017年にエル・システム・フェスティバルを主催してまいりました。

2017年には、エル・システムジャパン様と共にインクルーシブな合唱団「東京ホワイトハンドコーラス」を結成し、その成果をご来場の皆様にお届けし感動を分かち合うことができましたことを、大変光栄に存じております。

1990年の開館以来、私どもは多くのお客様をお迎えし、広く芸術文化に親しんでいただける劇場として歩んでまいりました。開館30周年を迎える2020年には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、ますます芸術や文化のグローバルな交流が盛んになっていきます。そのような中、東京芸術劇場は、東京の音楽・舞台芸術を代表する顔として、意欲的な作品創造を行い、国内外に発信していくと共に、エル・システムジャパン様との共同事業を通じ、あらゆる人々が芸術の創造にかかわり、さらに豊かな作品が創造されることを願ってやみません。

引き続き、私どもとエル・システムジャパン様との共同事業へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

東日本大震災で被災した子どもたちが音楽を紡ぐことにより自信や尊厳を回復し、自分の人生を切り開いていける「生きる力」を育むことを目標として、エル・システマジャパンは2012年に設立されました。被災地では福島県相馬市と岩手県大槌町で活動を展開し、2017年3月には長野県駒ヶ根市とも協力協定を結び、芸術に触れたり参加したりする機会の限られている子どもたちを対象にした弦楽器教室をスタートしました。さらに同年6月より「東京ホワイトハンドコーラス（障害のある子どもたちを中心にしたコーラス）」も立ちあげ、共生社会を目指した活動を実施しています。

エル・システマの3つの理念

1. すべての人が経済的事情を懸念することなく、音楽、芸術にアクセスできることを保障する
2. 集団（特にオーケストラ）での音楽、芸術活動を通じ、コミュニケーション能力を高める
3. 社会規範と自己の個性の表現を両立することを音楽体験を通じて学ぶ

活動内容

音楽を通して、生きる力を育む

直接的な支援

子どもオーケストラ
音楽教室、夏期集中講座、
講習会、各種コンサートの実施

子どもコーラス
合唱教室、各種コンサートの実施

体験教室

作曲教室

学校を通じた支援

部活動支援
弦楽合奏、合唱、
吹奏楽、金管バンド

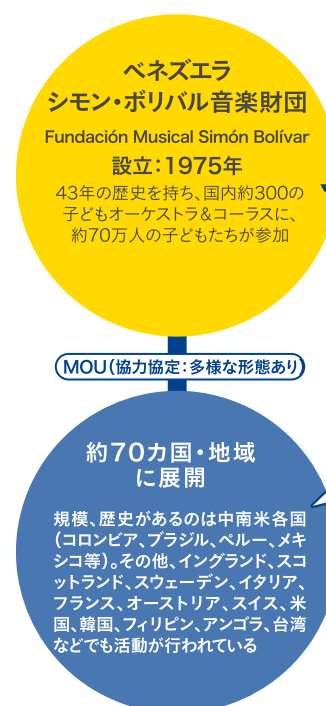
音楽授業支援
鑑賞教室

専門家の派遣
新たな講師への研修

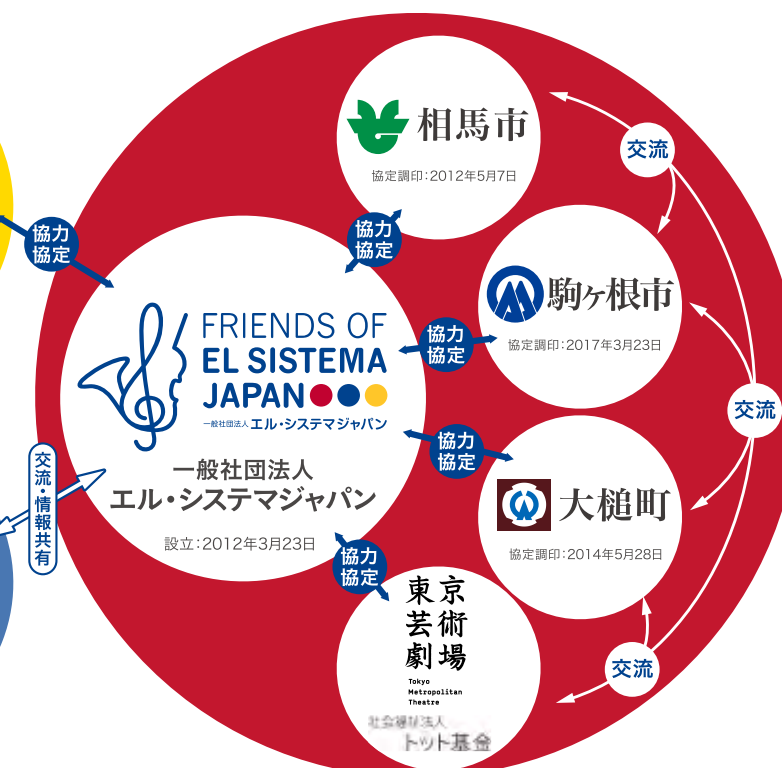
総合的な支援

**楽器の
購入・修繕**

世界での取り組み



日本での取り組み



役員・スタッフ（2018年3月現在）

理事

菊川穰（代表理事）
土井香苗（Human Rights Watch Japan ディレクター）
竹内章子（弁護士）

監事

矢崎芽生（公認会計士・税理士）

スタッフ

本部 4名（代表理事1名、従業員1名、業務委託2名）
相馬 6名（従業員1名、業務委託5名）
大槌 2名（従業員1名、業務委託1名）
駒ヶ根 1名（従業員1名）
東京 1名（業務委託1名）

音楽監督

浅岡洋平（オーケストラ|～2018年3月）
岡崎明義（吹奏楽）
古橋富士雄（コーラス）

フェロー（音楽指導ボランティア）64名
ホワイトハンドコーラスボランティア 6名

2012年3月の設立以来、エル・システムジャパンは
地元の人々の郷土愛に基づくアイデンティティを大切
にし、地域とともに育む音楽教育を実施してきました。
2017年には、東京(東京ホワイトハンドコーラス)が
4つ目のプロジェクトとして加わりました。



福島県 相馬市



週末音楽教室参加者数 (2018年6月現在)

	オーケストラ	コーラス
小学生	41 名	12 名
中学生	19 名	12 名
高校生	15 名	19 名
合計	75 名	43 名

※オーケストラは今年度よりスタートした管楽器教室のみの参加者 13 名を含む

学校への支援

相馬市内小学校：9 校
中村第一小学校、中村第二小学校、桜丘小学校、
飯豊小学校、大野小学校、山上小学校、八幡小学校、
磯部小学校、日立木小学校

日々の活動

平日(日中)：学校の部活支援としてバイオリンの専門家が
出向き、指導
平日(夜)：弦楽器自主練習
木曜：管楽器教室
金曜：相馬子どもコーラス 合唱教室
土曜(午前)：相馬子どもオーケストラ弦楽器教室 初級
土曜(午後)：弦楽器自主練習
日曜(午前)：相馬子どもオーケストラ弦楽器教室
中級
日曜(午後)：上級

練習場所：6カ所

相馬市総合福祉センター(はまなす館)、相馬市中央公民館、
相馬市民会館、相道の駅そうま、LVMH子どもアート・メゾン、
相馬市防災備蓄倉庫

全体としての裨益者数(学校への支援を含む)

約2,000名



岩手県 大槌町

週末音楽教室参加者数（2018年6月現在）

	オーケストラ
未就学児	3名
小学生	27名
中学生	1名
大人	6名
合計	37名

学校への支援

大槌町内小・中一貫校:2校（大槌学園、吉里吉里学園）
部活動支援

大槌学園吹奏楽部 13名
吉里吉里学園音楽部 3名

日々の活動

月曜～木曜:放課後バイオリン教室
土曜:週末弦楽器教室

練習場所：3カ所

子どもセンター、吉里っ子スクール、沢山地区集会所

全体としての裨益者数(学校への支援を含む)

約100名



©FESJ/2017/Mihoko Nakagawa



©FESJ/2017/Takaaki Dai



長野県 駒ヶ根市

週末音楽教室参加者数（2018年6月現在）

	オーケストラ
小学生	16名
中学生	2名
合計	18名

日々の活動

金曜(放課後):
駒ヶ根子どもオーケストラ・バイオリン教室
土・日曜:
駒ヶ根子どもオーケストラ・バイオリン教室(3チーム)

練習場所：4カ所

赤穂東小学校音楽室、駒ヶ根市高齢者保健福祉施設
ふれあいセンター、駒ヶ根市文化会館、駒ヶ根市役所
保健センター

全体としての裨益者数

約30名(※今年度の弦楽器教室参加人数)

©FESJ/2017/Hiromin Koyama



©FESJ/2017/Kayo Kato





東京

ろうの子どもたちを中心に今年度立ち上がった「東京ホワイトハンドコーラス」は、障害という概念を超えて美しい音楽と一緒につくる素晴らしさを追求しています。白い手袋をして生き生きと歌の世界を表現するホワイトハンドコーラスはベネズエラで20数年前に生まれ、これまで視覚・聴覚障害や自閉症、発声に困難を抱える子どもたちがともに活動してきた実績があります。あらゆる子どもたちが主体的かつ相互的に学べる場は、自己表現と包摂的な交流を促し、多様性をポジティブにとらえる共生社会の実現へとつながります。

週末音楽教室参加者数（2018年6月現在）

ホワイトハンドコーラス	
未就学児	1名
小学生	14名
中学生	2名
高校生	1名
合計	18名

日々の活動

日曜：東京ホワイトハンドコーラス

練習場所：2カ所

東京芸術劇場、トット基金

全体としての裨益者数

18名



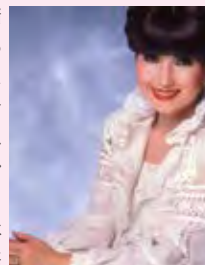
©FESJ/2017/Mariko Tagashira

社会福祉法人トット基金 理事長
黒柳徹子さんからのメッセージ

聞こえる人も聞こえない人も、一緒にコーラスを作り、楽しむことができるしたら、どんなに素晴らしいことでしょう！どんな子どもたちも、希望したら、音楽を学ぶことができる、というオーケストラやコーラスを創る活動を「エル・システマジャパン」がお始めになりました。

ろう者の子どもたちにとって、手話は第一の言葉。聞こえる子どもたちが毎日おしゃべりするように、ろう者の子どもたちは、手話で毎日沢山のしゃべりをしたり、学んだりしています。歌の世界の情景や感情を、手話で豊かに表現できる場として音楽があるのは、本当に素晴らしいことだと思います。聞こえなくても振動や感触でわかる音楽があります。聞こえない人に合った音楽教育はあるはずです。それはきっと、音楽家にとっても喜びであるでしょう。

生まれたばかりの東京ホワイトハンドコーラスを応援していきます。



©FESJ/2017/Mariko Tagashira



JR 東日本発足 30 周年記念コンサート



“エル・システムジャパン”オーケストラフェスティバル



藤倉大先生とホルン奏者の福川伸陽先生による作曲教室



リチャード・エレジーノさんとピアニストの後藤里帆さんを迎えて

2017年4～12月

- 4月1日 「JR 東日本発足30周年記念コンサート エキコ
ン@TOKYO STATION」で、相馬子どもオーケ
ストラの代表メンバーが演奏
- 4月15日 大槌弦楽器教室をNHK 交響楽団バイオリン奏者
の大鹿由希先生が訪問指導
- 4月29日 「“エル・システムジャパン”オーケストラフェスティ
バル」を開催、相馬子どもオーケストラ、大槌子
どもオーケストラ、フェローオーケストラ、Hand-
sOn オーケストラが共演
- 4月30日 藤倉大先生とNHK 交響楽団首席ホルン奏者の
福川伸陽先生による作曲教室(LVMH 相馬こども
アートメゾン)
- 5月4日 「ボンクリフェス2017」にて、藤倉大先生、三味
線の本條秀慈郎先生、作曲家の蒲池愛先生と中
川俊郎先生が作曲教室を開催
- 5月5日 「春のお祭りコンサート」で、大槌子どもオーケ
ストラが演奏
- 5月16日 エル・システムジャパン理事・監事会で2016年
度決算報告、2017年度収支予算計画が承認
- 5月24日 日本NPOセンター主催の「ソーシャルポスター展」
にて、電通東日本が制作したエル・システムジャ
パンのポスターが展示
- 5月31日 大槌町こども教育センターの落成式にて、音楽
監督(吹奏楽)の岡崎明義先生と大槌弦楽器指
導担当の櫻井うらら先生が献奏
- 6月14日 「社会インパクト評価報告会～音楽×教育×地域
のチカラの協奏を促す～」を慶應義塾大学三田
キャンパスにて開催
- 6月18日 東京ホワイトハンドコーラスの説明会を実施
- 6月20日 「エル・システムジャパン弦楽器教室 説明会&体
験会」を駒ヶ根市で開催
- 6月21日 相馬市の山上小学校と中村第一小学校で、ロサ
ンゼルスフィルハーモニック・ピオラ奏者のリチャ
ード・エレジーノさんとピアニストの後藤里帆さん
をゲストに迎えて鑑賞教室
- 6月25日 東京ホワイトハンドコーラスの教室がスタート
- 7月1日 藤倉大先生と笙の東野珠実先生による作曲教室
(LVMH 相馬子どもアートメゾン)



駒ヶ根弦楽器教室がスタート



響け!復興へのハーモニー in 仙台～つながる未来～



エル・システム・フェスティバル2017



エル・システム 子ども音楽祭2017 in 駒ヶ根

- 7月2日 藤倉大先生と笙の東野珠実先生による作曲教室
(東京芸術劇場)
- 7月11日 コンクール岩手県大会の沿岸地区予選に大槌学園・
吉里吉里学園合同バンドが参加
- 7月14日 駒ヶ根弦楽器教室がスタート
- 7月27日 エル・システム管楽器教室が相馬市でスタート
- 8月4-6日 エル・システム夏期学習会に相馬子どもオーケス
トラと大槌子どもオーケストラの子どもたちが参加
- 8月20日 「響け!復興へのハーモニー in 仙台～つながる
未来～」に相馬子どもオーケストラと大槌子ども
オーケストラが参加
- 8月24日 「ホワイトハンドコーラス ドキュメンタリー上映会
～共生社会をめざす芸術活動とは～」を開催
- 9月3日 「第4回大槌の合唱祭」に大槌子どもオーケストラ
が参加
- 9月20日 相馬市の磯部小学校全校児童の鼓笛隊が、相馬
井戸端長屋(災害公営住宅)を訪問演奏
- 10月4日 「ALIVE プロジェクト:駒ヶ根市×子どもオーケ
ストラの未来を創るプログラムを提案する」が開始
- 10月22日 「エル・システム・フェスティバル2017」を東京芸
術劇場にて開催、東京ホワイトハンドコーラス、
相馬子どもコーラス、フェローオーケストラ、ベネ
ズエラのララ・ソモスが共演
- 10月24日 「エル・システム 子ども音楽祭2017 in 駒ヶ根」
を開催
- 10月29日 駒ヶ根市の「みなこいワールドフェスタ国際広場」
のベネズエラ・ブースで、エル・システムジャパンの
活動を紹介
- 11月4日 「大槌町民文化祭」で大槌子どもオーケストラが
演奏
- 11月12日 上野学園大学音楽文化研究センター主催の「音
楽をまなびほぐす:仕組みをつくる編」に代表理
事の菊川が登壇
- 11月15日 相馬市の日立木小学校と飯豊小学校で、ハルモ
ニア・フォンテをゲストに迎えて鑑賞教室
- 11月26日 「世界防災フォーラム/防災ダボス会議」のテク
ニカルセッション、「心の復興を支える「文化力」
の仕組みを探る～心をつなぎ 力をつなぐ～」に、
代表理事の菊川がパネリスト参加



エディクソン・ルイスさんと相馬子どもオーケストラ



大槌子どもオーケストラ クリスマスコンサート



フェローオーケストラ 第2回チャリティコンサート



第4回エル・システマ子ども音楽祭 in 相馬

- 12月3日 藤倉大先生とコントラバスの佐藤洋嗣先生による作曲教室(LVMH 相馬子どもアートメゾン)
- 12月4日 相馬子どもオーケストラが相馬市で弦楽曲の発表会を開催
- 12月10日 ベネズエラのエル・システマ出身のエディクソン・ルイスさんと相馬子どもオーケストラがいわきアリオスで共演・交流
- 12月16日 「軽井沢ウィンターフェスティバル2018」の特別イベントに、大槌子どもオーケストラがキッズコーラスあぐどまめさんと参加
- 12月17日 エル・システマジャパンが実施したクラウドファンディングの支援の一環で、フェローオーケストラがNPO 法人キッズドアにて演奏
- 12月24日 「大槌子どもオーケストラ クリスマスコンサート」を開催

2018年1～3月

- 1月4日 相馬市商工会議所主催の「相馬市新春のつどい」で、相馬子どもオーケストラの代表メンバーが演奏
- 2月12日 「フェローオーケストラ 第2回チャリティコンサート」が開催される
- 3月4日 「第2回大槌町吹奏楽ジョイントコンサート」に大槌子どもオーケストラが参加
- 3月17-18日 「第4回エル・システマ子ども音楽祭 in 相馬」を開催
- 3月24日 「駒ヶ根子どもオーケストラ 平成29年弦楽器教室発表会」を開催
- 3月26日 「Learn for Life 2018」のトークセッション、「アートと学び」に代表理事の菊川が登壇
- 3月29日 相馬市の管楽器教室が「ミニ発表会」を開催





©JR 東日本ご提供



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

JR 東日本発足30周年記念コンサート エキコン@TOKYO STATION

『JR 東日本発足30周年記念コンサート エキコン@TOKYO STATION』が4月1日、東京駅の丸の内北口にて開催されました。エキコンは国鉄の民営化の象徴として1987年に初開催。10年ぶりの開催となる今回は、JR 東日本さんが管轄の東日本エリアを元気にしたいという願いをこめて、東北にゆかりのある「相馬子どもオーケストラ」をご招待くださいました。

エキコンでは、東京 馬車 周りの音があたり、あまりないことないかん境で演奏したのだから、ひまがよく、東京 馬車 の改札の音などがあったので、いつもとはちがう特別な演奏ができたと思いました。



©FESJ/2017/Mariko Tagashira



あかりさん
中2・バイオリン

エキコンはアイネクライネ、コレリ デザレメント、相馬盆唄を演奏しました。駅の中で演奏したので、たくさんの方が聞いてくれると思いました。でも、楽しんで笑顔で演奏することができたから、良かったと思います。このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



莉子さん
中1・バイオリン



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

詳細は右記のアドレスから www.elsistemajapan.org/tokystationconcert

“エル・システマジャパン”オーケストラフェスティバル

『“エル・システマジャパン”オーケストラフェスティバル』が4月29日、渋谷区文化総合センター大和田さくらホールにて開催され、エル・システマの理念に共鳴する4つのオーケストラが共演。音楽を共に奏でる素晴らしさをバックグラウンドの異なる共演者同士、そして会場にいらしたお客さまとも分かちあう画期的な集いとなりました。

司知さん
小3・相馬子どもオーケストラ / バイオリン



ほとがなかったときには、デパートメントは6とカンでした。れんじゅうのときも、おもしろいと思いました。3人で演奏するときは、もう少し、なまめにならうかなと思いました。



©FESJ/2017/Takaaki Dai



©FESJ/2017/Mihoko Nakagawa

いろいろな場所の人と一緒に演奏して音楽は、人数でやるよりも、いろいろな人とのつながりが大切だと思います。楽しい、おもしろいことがたくさんありました。初めて東京でコンサートをするので、緊張しましたが、たくさんの方の応援のおかげで、とてもうれしかったです。また、いろいろな人との演奏に演奏する機会があれば、またいろいろな演奏をして、仲良くなりたいと思います。また、東京コンサートのためにたくさん練習して、音楽は失敗をくり返して成功するということになりました。この分かったことを活用して、またいろいろなことをしたいと思います。

カノンの曲ができてうれしかったです。バイオリンももっと上手になりたいです。道のりも、ソフトボールも、いろいろなことがありました。東京で演奏する機会が、とてもうれしかったです。



美結さん
小6・相馬子ども
オーケストラ
/ バイオリン



凛々さん
小3・大槌子ども
オーケストラ
/ バイオリン

詳細は右記のアドレスから <http://www.elsistemajapan.org/orchestrafestival2017>



10月22日は、エル・システマ・ガラコンサート当日
で、思ったことがあります。
ララ・ソモスの目が不自由な方はどうや
って歌をおぼえているかすごく気になり
ました。楽しむを見ないで曲をおぼえ
れるということは、耳だけで、聞いておぼえ
るということなので、すごいと思いました。
耳の不自由な人も目が不自由な人も、同じ
音楽をえんそうできて、わたしたちとい
しょに、楽しくてきたので、音楽、ていい
なと思いました。
またいっしょにやりたいです。

奈津さん
小4・相馬子どもコーラス



エル・システマ・フェスティバル2017／『エル・システマ ガラコンサート』

『エル・システマ ガラコンサート』が10月22日、池袋の東京芸術
劇場にて開催されました。「相馬子どもオーケストラ」、「東京ホワ
イトハンドコーラス」、「フェローオーケストラ」、そして、ベネズエラ
から来日したエル・システマの若手音楽家たちによる心こもった
歌や演奏に会場から万雷の拍手が送られ、公演は大盛況に終わ
りました。

©FESJ/2017/Koichiro Kitashita



©FESJ/2017/Sara Watanabe



©FESJ/2017/Sara Watanabe



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

今回の演奏会は、私の人生の中で絶対に忘れることのできない
演奏会になりました。本番はもちろん、練習や休憩の時間まで
こんなに心から楽しめたのは初めてです。また、ホワイトハンド
コーラス、ララ・ソモスの皆さんとの初共演に、すごくドキドキして
いたのですが、緊張を吹き飛ばしてくれるくらい、明るい方たちで、一緒に
すごす時間はとても良い時間になりました。そして、本番当日
皆さんが笑顔でほめてくれたとき、「自分の本番にやれたかな
音楽はこういうものだ、なんだ！」と気づきました。演奏者だけでなく
観客の方々も心から楽しめる音楽を、これからもこの
子どもコーラスでやっていけたら良いなあと思います。
本当に勉強になった2日間でした！！

瀬奈さん
中3・相馬子どもコーラス



ウネズエラのみなさんは、やさしい人です。言葉が
通じなくても、気持ちが伝わる感じがしました。そして、本番...
本番にドキドキして、緊張して、でも、この一回の本番を後悔しないよう
頑張ろうと思いました。はく手をたくさんもって
スタートしました。頑張りました。大きく表現を
しました。ウネズエラのAlma Ilaheraは、
大好きだから、笑顔で頑張りました。お客さ
んのはく手は、バチバチと、聞こえなくて、
パワーとひびいてきました。コンサートが終
たら、ウネズエラのみなさんが、演奏をしていて
相馬のみなさんとハンドのみなさんと一緒に盛り
あがって、うたえたこととてもうれしかったです。
みんなが1つになつて、思っています。

ひかるさん
高3・東京ホワイトハンドコーラス



詳細は右記のアドレスから <http://www.elsistemajapan.org/20171022>



A wide-angle shot of a large audience seated in a theater, looking towards the stage. The audience is diverse in age and appearance. The theater has a warm, wooden interior. In the top right corner, there is a small text overlay: "© 駒ヶ根市".

◎ 駒ヶ根市



22 | エル・システム ジャパン活動報告書 | 2017年度のハイライト |



©FESJ/2017/Mihoko Nakagawa

大槌子どもオーケストラ クリスマスコンサート

『大槌子どもオーケストラ クリスマスコンサート』が12月24日に開催されました。3回目となる今回のクリスマスコンサートは、町内で一番大きい大槌町中央公民館。大槌町の皆さんに成長した子どもたちの演奏を聴いていただこうと選んだ会場には、保護者の方たちをはじめ、学校のお友達や地域の方たちが集まり、心温まる音楽のひとときとなりました。



©FESJ/2018/Kayo Kato



©FESJ/2017/Mihoko Nakagawa



「この8ヶ月で、かなり成長した。弓を正しい位置に当てられるようになった。(バイオリンの音は)高い音と低い音があって、学校でみんなが歌っているときみたい」

蓮華さん(小4・バイオリン/指揮)



©FESJ/2018/Kayo Kato



©FESJ/2018/Kayo Kato

「アメイジング・グレースは、いっぱい練習したので、スラーとかいつもよりよくできた。コンサートは、みんなが合わせてきれいな音を出すところが楽しい」

天使さん(小5・チェロ)



詳細は右記のアドレスから <http://www.elsistemajapan.org/20171224>



東日本大震災の被害に私たちは、あて、たての人は、たてが、
悲しんでいるのを見ました。
そんな人々を一人でも多く笑顔にしていきたい。私は、この演奏会で
思いました。なので私は、これからの活動を今まで以上に
がんばり、東日本大震災で悲しい思いをした人々をユウスの
メンバーみんなで笑顔にしていけたらいいと思います。



絢香さん
小6・コーラス

去年と比べると回数が少なくなった。音楽祭とは違う
オーケストラでオーボエの役割と学ぶことができた。そして、
強弱やアーティキュレーションも一つの記号にたくさん意味が
あるということを知った。音楽祭でもオーケストラで学ぶ
ことを活かそうと思いました。



愛美香さん
高2・オーボエ

今日のエリシステマでの練習を通して、私は初めてオーケストラの一員として演奏しました。
Aのチューニングや、弦楽器の演奏など、初めてのことが多く、とても良い経験を
させていたと思います。



あゆみさん
高1・オーボエ

第4回エル・システマ子ども音楽祭 in 相馬

『第4回エル・システマ子ども音楽祭 in 相馬』が3月17・18日の2
日間にわたり、相馬市民会館で開催されました。活動を立ちあげ
てから5年を迎えた相馬では、“子どもから子どもへ伝える、教え
あう”というポジティブな循環が生まれつつあり、時間をかけ醸成
されてきた音楽の力強さが心に響く音楽祭となりました。



©FESJ/2017/Mariko Tagashira



©FESJ/2017/Mariko Tagashira



©FESJ/2017/Mariko Tagashira



©FESJ/2017/Mariko Tagashira



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

利進さん
小2・ビオラ



私は音楽祭とても参加がうれしい。そして、
おどってたりうたっていたりして、みんなさん、
ほめて、おどいには、さんこうが、あつていました。
私はこの音楽祭を、より、より音楽で
みんなを、楽しませる、の、め、たい、な、お、も、い、ま、
した。とても、楽しかったです。

和月さん
小4・コーラス



すみれさん
小5・バイオリン



私は、コーラスでは、第一回から出ていました。けれど、コーラスの
練習や本番前は、やはり、空気が、あつた、感じが、していました。
初めての、オーケストラでの、子ども音楽祭、の、ために、足、を、ひ、き、ら
ない、よう、みんな、と、少し、でも、な、じ、め、る、よう、精、一、は、い、練習、した、た、
樂、隊、を、見、る、は、音、が、あ、つ、た、と、う、た、た、う、た、た、う、た、た、う、た、
時、も、あ、り、ま、し、た、。先、は、い、の、み、な、さん、た、う、の、よう、に、さ、れ、い、鼓、音、が、
あ、つ、た、。学、校、と、の、し、べ、た、の、ち、が、い、い、な、あ、ち、た、め、に、感、じ、た、気、が、し、ま、す、
本、番、で、は、少、し、と、ま、ど、い、た、つ、ま、ち、か、ら、た、り、も、し、ま、し、た、が、
今、ま、で、な、か、た、こ、こ、に、あ、つ、た、り、う、た、た、い、と、な、り、の、人、の、き、に、あ、つ、
た、う、た、り、今、ま、で、な、か、た、こ、こ、に、あ、つ、た、り、う、た、た、い、と、な、り、な、り、ま、し、た、
は、ん、の、少、し、と、ま、ど、い、た、つ、ま、ち、か、ら、た、り、も、し、ま、し、た、が、
この、言、う、た、り、で、来、年、度、も、な、り、う、た、た、い、と、な、り、ま、し、た、い、ま、す、

詳細は右記のアドレスから <http://www.elsistemajapan.org/20180317>



浅岡洋平
オーケストラ

チェリスト、指揮者。東京芸術大学在学中に第31回「文化放送音楽賞」を受賞。ニューヨークのジュリアード音楽院に留学。日米両校において大学院を修了。現在は、指揮者・演出・音楽監督として、クラシック音楽の普及と再創造に取り組んでいる。また、ダルクローズ・メソッド、アレキサンダー・テクニーク、ルドルフ・ラバンの身体表現理論を軸に、ユース・オーケストラ教育カリキュラムの制作と実践指導を行っている。

指導開始から5年の節目。日々の課題ではヴィヴァルディの各種協奏曲で個と集団の対話を学ぶ。指揮の生徒には、練習時から実際の指導も行うよう設定し、指揮の技術とともに集団を統制する練習の実践指導も行った。団員が指揮指導を行うことで、オーケストラの自律性と学び合いの意識も向上した。

音楽祭には、グリーグの組曲「ホルベアの時代より」、ベートーヴェン交響曲第7番、ムソルグスキー／ラベル 組曲「展覧会の絵」、チャイコフスキー弦楽のためのセレナーデ等、演奏家が夢に描くようなプログラムを設定。困難を極める課題だが、多彩で深遠な作品の魅力に触れることで、より強い探究心やさらなる技術の向上を求めるようにと考え、無理を承知で押し通した。準備段階では演奏不可能と思われる箇所も多く見られたが、子どもたちは山積する難題を細分化しながら根気よく丁寧に仕上げ、私の予想を大きく上回る立派な演奏を披露してくれた。

これだけのプログラムを実現することは並大抵の努力ではかない。個々のたゆまぬ努力、仲間との学び合い、指導者と保護者の厚いサポートが一体となって結実したものだろう。客席の聴衆も例年になく緊張感と集中力を伴った反応を示し、子どもたちの素晴らしい演奏に惜しみない拍手と賛辞を送っていた。

このような音楽による感動体験は、有用性に根ざした日常の価値観で推し量ることはできない。むしろ、そういった世界観を破壊し、ヒトと世界との自然な連関をあらためて見出す「没我」の状態を呼び起こすものとして機能する。就任当初保護者に説明した「リベラル・アーツ」としてのオーケストラ教育の真意はこのことにある。高度な音楽藝術の創造活動は、自己と世界の境界を取り去っていく行為であり、習熟するほどに作品と自我が融合していく。そのような対象との一体化が言語化をより困難なものとする。語り得ぬものであるがゆえに、実体験のみが作品を理解する唯一の手がかりだ。子どもたちは音楽による統合的な体験を経て、言語によって記号化された学問の限界を知り、それらは世界との関わりの断片でしかないと気づくことができる。

相馬の子どもたちは、自らの手で模索し探求した音楽作品の演奏行為によって、世界と自分との根源的な一体感を体得しようとしていたのだ。その誠実で偉大な営みに対し、心からの称賛と敬意を記し、彼らのさらなる飛躍を祈念する。



岡崎明義
吹奏楽

フルート奏者。福島県相馬市生まれ。専門学校尚美高等音楽院(現 尚美ミュージックカレッジ)講師、尚美音楽短期大学助教授、尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科教授職を勤め上げる。東京交響楽団との協奏曲共演をはじめ、ソロ演奏や木管アンサンブルなどでの演奏活動でも活躍。全国各地で音楽指導者・コンクール審査員も務める。現在、(一社)日本フルート協会代議員、アジアフルート連盟日本本部常任理事。

2017年度も非常に充実した1年となり、相馬も大槌も子どもたちは大きく成長しました。

相馬ではこれまでに引き続き、『相馬子ども音楽祭』の運営に実行委員長として努めました。監督会議や地元関係者の実行委員会、相双地区吹奏楽連盟などと細やかに調整しながら内容を詰め、2日間にわたる地域のイベントを今年も成功に導けるように励みました。中でも、今年度は7月よりフルート、オーボエ、ファゴット、ホルンを対象とした管楽器教室を開講し、8名の子どもたちが参加。本番へ向けて、相馬高校と相馬東高校の先生方へも協力をお願いし、管楽器と打楽器パートへの吹奏楽部生徒の出演を依頼すると同時にオーディションも実施しました。

大槌は吹奏楽人口が激減して、依然として厳しい状況にあります。その中で、地域の方たちが目指したいものを尊重し、そこに寄り添えるように努力しました。大槌学園中学部・吉里吉里学園中学部合同吹奏楽部の子どもたちを指導してきたほか、年度末に開催された「大槌ジョイントコンサート」でも指揮と指導に携わりました。地域の吹奏楽団、大槌高校、大槌学園、吉里吉里学園による合同発表の場である「大槌ジョイントコンサート」は、子どもたちが日頃体験できない大編成の吹奏楽作品を学び、世代を超えて音楽的交流ができる素晴らしい機会でした。

来年度も子どもたち一人ひとりの向上にさらに気を配り、実り多い活動を展開できるように関係者の皆さんと活動を進めていきたいと思っています。



古橋富士雄 コーラス

指揮者。NHK東京児童合唱団常任指揮者（音楽監督）、桐朋学園大学音楽部講師、東京家政学院短期大学講師、日本合唱指揮者協会理事長、浜松市アクティシティ音楽院音楽監督、日本コダーイ協会理事を歴任する。特に40数年に渡り「NHK 東京児童合唱団」を愛情と情熱に満ちた指導により世界レベルの合唱団に育て上げ、国内外数多くの賞を受賞し、日本における第一線の演奏団体に育てた氏の力量は称賛されている。

『エル・システマ・フェスティバル2017』が10月20～22日の3日間、東京・池袋の芸術劇場で開催され、最終日の22日は、『エル・システマガラコンサート』が行われました。「相馬子どもコーラス」は、東京ではサントリーホールに続き2回目の大ホールでの体験です。この日はあいにくの台風と重なり、満席になるはずの客席が半分之一になってしまいましたが、相馬のホールと違う2000人キャパの大ホールでの演奏は子ども達に大きな自信と成長を与えたのです。

幕開けに伊藤康英編曲による「相馬盆唄」を演奏し、会場のお客さんの心をしっかり掴んだ子どもたちは、その勢いに乗ってラッキィ池田、彩木映利両先生の素敵なお振付で蓬萊泰三（作詞）、南安雄（作曲）コンビの名作「お菓子の歌」を愛嬌たっぷり披露しました。

この日最後を飾ったのは、今年3月にデビュー公演を飾った「フェローオーケストラ」の管弦楽に合わせて阪田寛夫（作詞）、山本直純（作曲）／児童合唱と管弦楽のための組曲「遠足」を演奏しました。通常コーラスはオーケストラの後ろで演奏するのですが、この曲の持つ本当のスタイルを一度やってみたいとかねがね思っていた小生は、指揮者の井上さんに相談したところ彼も賛同していただけたので、ステージングを付けて、通常の逆にしてオーケストラを舞台の後方に位置し、舞台前をコーラススペースにし客席と舞台を一体化したミュージカルのスタイルで演奏しました。その素晴らしさに大喝采をいただいたのは言うまでもありません。

前日、相馬で演奏を終えたベネズエラから来日した「ララ・ソモスヴォーカルアンサンブル」とともにバスで移動した57名の子ども達は、バスの中で彼らの素晴らしい声とリズムにどっぷり浸かり、宿泊所到着まで歌っぱなしの数時間だったようです。そして夕方からの交流会では障害のある子ども達と触れ合い、音楽には国も、年齢も、障害も関係ないことを改めて学んだのです。そして当日、すっかり仲良くなった「ララ・ソモス」と大雨の中、重い大きな荷物をバスまで進んで運ぶ笑顔の子ども達がいきました。迎えた本番は先ほど申し上げた通りですが、昨日の交流会で仲良くなった、この日がデビューとなる「東京ホワイトハンドコーラス」も第1部の終わりに登場。はじめてのステージで、しかもメンバーの最年少は5歳とあり、保護者の方たちも含め関係者はドキドキしていましたが、みんな堂々としたものです。「もみじ」「ゆき」は、手歌と踊りが加わり素敵な世界を作り出しました。この日仲良くなった子ども同士の楽しい思い出は、後日も手紙のやりとりを通して続いているようです。

日本の子どもとベネズエラのエル・システマの若者を中心とした音楽家たちによる心のこもった歌や演奏に会場から万雷の拍手が送られ、公演は大盛況に終わりました。

障害などあってもなくても何も変わらないのだと身を持って感じた子ども達は、音楽を通して交流する素晴らしさを体全体で感じた1日でした。



コロシエリカ スペシャルアドバイザー 東京ホワイトハンドコーラス指導担当

ベネズエラ生まれ。聖心女子大学・大学院で教育学を学んだ後、英国王立音楽院、声楽科修士課程を優秀賞で卒業。同年ウィグモアホールデビュー。モーツァルト・フェスティバル（ブリュッセル）、宗教音楽祭（フィレンツェ）、日英国交150年記念メサイア（ロンドン）でソリストを務めるなど、ヨーロッパと日本を中心に国際的に活躍するソプラノ歌手。これまでバリ・オペラ座メンバー、国内の主要オーケストラはじめ、キリ・テ・カナフ、ジョン・バエスなどと共演。代表曲は父のエリック・コロシエリカが平和への願いを込めて作曲した「被爆マリアに捧げる賛歌」で、CD出版されている。聖心女子大学在学中は「聴覚障がいの子どもと音楽」について研究し、ワークショップを行ったり、コンサートで共演するなど、長年関心をもって取り組んでいる。現在4児の母。

2017年6月、ホワイトハンドコーラスが産声をあげました。2015年東京芸術劇場でのワークショップ開催後、関係者の中で温められてきた新たな一歩でした。6ヶ月かけて、5-17歳の表現力豊かなろうの子どもたちがエル・システマ・フェスティバルでの大舞台に臨みました。

ホワイトハンドコーラスの表現は、ろうの子ども達の内側から出てくるものでなければ意味がないというトット基金の井崎哲也先生の考えの元、私達は徹底的に歌詞を読み込み、何度も子ども達と話し合いながら、音楽を手で歌う「手歌」を紡いでいきました。

年齢層にも大きな幅があり、「こたつ」から「受難と罪の償い」までイメージを使って、歌詞を一つ一つ確認し、心に感じられるようになるまで時間をかけました。又フェローの方々にはオーケストラ生演奏付きのリハーサルで、ろうの子どもたちの中に響きとリズムをプレゼントしてもらいました！

本番では初舞台の緊張もどこやらず、立派なパフォーマンスで観客の心をつかんだだけではなく、ベネズエラからやってきたホワイトハンドコーラスのメンバーに自分たちから話しかけ、同じ境遇の仲間から刺激を受けて人間的に大きく成長した姿を見ることができました。

2018年は視覚障がいの子どもたちも加わり、ヴォーカルパートと一緒に独立した活動を目指します。高い芸術性を目指しながらも、互いに助け合い共生する、社会の理想の姿をこのホワイトハンドコーラスの活動を通して実現していきたいと思います。



井崎哲也 スペシャルアドバイザー 東京ホワイトハンドコーラス指導担当

佐賀県出身、東京教育大学附属聾学校卒業。1974年、東京バントマイム研究所でバントマイムを習い、1980年には「東京ろう演劇サークル」（1981年に「日本ろう者劇団」に改称）の設立に参加する。1982年よりアメリカ合衆国のプロろう者劇団「ナショナル・シアター・オブ・ザ・デフ」のメンバーとして1年半参加した後、日本ろう者劇団に復帰する。日本ろう者劇団の代表代行を務めている。なお、NHK教育テレビジョンの手話講座番組「NHKみんなの手話」に、講師として出演していた他、1995年日本テレビのドラマ『星の金貨』の手話指導をも手掛けた。2009年の映画『ゆずり葉-君もまた次のきみへ-』には、ろうあ連盟の大川事務局長役で出演している。

ろうの子どもたちが本番で歌い終えた後の笑顔が、とても印象に残っています。僕自身は舞台で芝居をやった後に達成感を持ちますが、それと同じものを聴こえない子どもたちが歌の世界で感じていたのです。ろう者が作り表現した「手歌」というものを表せたことは、大変よかった。耳の聴こえるおとなの手話コーラスは、手話の形を意識したり、説明的になったりしますが、一番大事なのは「それはどんな気持ち？」ということ。そこを表現することです。このコーラスが知られることで、イメージや意味を掴んで表現をするということを広く伝えられますし、また将来に渡り、子どもたちにも、手話には深い意味があるのだな、いいものだなと見てもらうことができるでしょう。

相馬市

フェロー
桜井雄三

今年度、「相馬子どもオーケストラ」はソロや指揮など、一人ひとりが挑戦の機会にたくさん恵まれました。個人として成長し、それをオーケストラに還元して全体が成長するといった流れで、大きく成長しました。数年前に初めて楽器を手に取り、まだもじもじと恥ずかしそうに楽器を構えていた子も、今では大曲を立派に演奏するようになりました。相馬に行く度に、子ども達の成長に驚かされます。年度末には音楽監督の浅岡先生が退任されました。この出来事をきっかけに、より一層自分たちで考え、行動する機会も増え、先輩たちを中心に一生懸命がんばっています。フェローとしても、彼らのあらゆる経験が今後の人生の糧になるよう、全力サポートしていきます。

相馬市

相馬子どもオーケストラ
保護者・相馬雅楽会事務局長
土屋友利恵

エル・システム子ども音楽祭も今年で第4回を迎え、ご来場くださった皆さんから「すばらしかった」「感動しました」「ありがとう」との声を多く掛けていただき、設立時より、メンバーとして関わってきました娘達共々、その言葉に目頭が熱くなり、感無量になりました。これも子ども達の成長とそれを支えてくださる先生方のご指導の賜物と感じております。これからも、子ども達のひたむきな努力が、更なる成長と、それに関わる人達に「希望と勇気」を与えてくれることをご祈念いたします。また、相馬雅楽会に所属している私は、学校音楽支援として地域の各小学校に雅楽鑑賞教室活動を行っております。表情豊かに取り組んでくれる子ども達が、楽器をうまく演奏できた時に作る誇らしげな顔に、「音楽が創る力」を感じ、私達の活動の支えとなっております。今後も学校音楽支援活動として、伝統ある雅楽に触れ合う機会と一緒に楽しむ時間を過していけるよう精進して参りたいと思います。

大槌町

大槌子どもオーケストラ
弦楽器指導講師
上杉理香

2014年、大槌にエル・システムを繋ごうとしていた、夫・上杉裕之は、準備のために訪れていた大槌で倒れ、そのまま帰らぬ人となり、大槌プロジェクトの発足を見ることはできませんでしたが、幸い、その後に始まった弦楽器教室の指導のお手伝いをさせていただけることとなりました。当初は、「被災地の子供たち」を教える、という意識を持って指導をしていましたが、今は教室に通う子供たちは、被災の記憶のない世代も多くなり、新しいステップに入ったことを感じています。大槌の子供たちには、楽器を演奏することでも、それ以外のことで、まだまだ自分には可能性があることを知り、様々な経験を通して、その可能性を追求してほしいと思います。

大槌町

大槌子どもオーケストラ
保護者
祝田美里

娘がバイオリンを始めて3年目になります。以前は東日本大震災の影響による生活環境の変化からか、自分のやりたい事もハッキリと言えず引っ込み思案な所がありましたが、バイオリンに触れる機会をいただき、仲間達と音楽を奏する事により自分に自信がつき、やりたい事がハッキリと言える、明るい娘に成長しました。娘は人生の中のしかるべき場所に楽しみを見つけたのでは?と思っています。今では休まず練習に参加し、プレゼントにバイオリンをお願いする程に音楽を好きになっております。バイオリンに触れる機会を与えていただいた事に感謝し、今後も色々な出会いや経験を重ね、成長する娘を見守っていききたいと思います。

駒ヶ根市

フェロー
山内緑

駒ヶ根の子どもたちは、休み時間には友達とふざけ合う姿もありますが、練習が始まると真剣な表情で取り組みます。弦楽器教室が始まった当初の姿と比べると、今ではさらに上手くなりたい!色々な曲を弾けるようになりたい!という熱意があります。自分の演奏を周囲の人に聞いてもらう機会や地域の方への発表の場が度々あり、先生や周りの友達、お家の方に褒められることで、自信や喜びに繋がっています。また、一緒に学ぶ友達の姿に刺激を受けたり、時には教えてあげたりと、心の成長も感じています。フェローとして、教えるだけではなく子どもたちと一緒に学び成長し、仲間とともに音楽を奏でる楽しさや喜びを子どもたちが感じられるようにしたいです。

駒ヶ根市

駒ヶ根子どもオーケストラ
保護者
中島智恵子

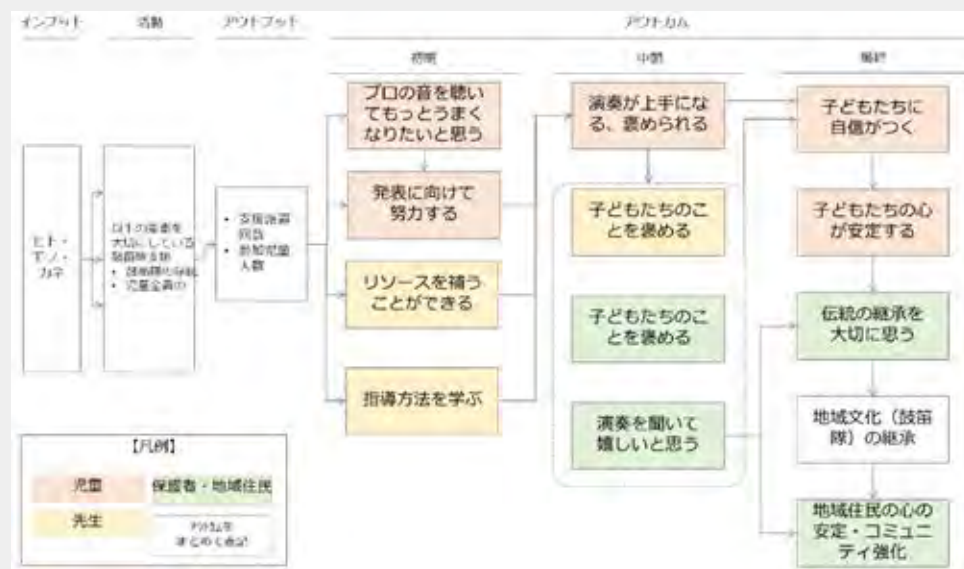
小学1年生と3年生だった子供たちが弦楽器教室に通うようになり1年。まさかこの駒ヶ根で市の事業として、ふつうの子供たちがバイオリンを学べる思いがけない機会に、不安と期待のなか成長を見守ってきました。初めてふれるバイオリン。できないなりに、純粋に、まっすぐに音楽に向き合い、つまずきながら、楽しみながら、おだやかな雰囲気の中、みなで音楽を作りあげていく姿を見て、子供たちの可能性と音楽のチカラに驚かばかりです。演奏会や発表会での、弾き終わった後の子供たちの目をきらきらさせた誇らしげな顔。みんなでバイオリンが弾けることが楽しいと話す子供たち。これから音楽とともにどんな風に成長していくか楽しみでなりません。

東京

東京ホワイトハンドコーラス
保護者
新井直美

娘は小学生の頃、大変だと感じていなくても「大変ね」と声をかけられたり、人の視線が集まるのを感じて、外での手話をやめてしまったりしたことがあります。音を聴くことが厳しい娘が楽しめるか不安はありましたが、素敵な先生方のご指導のもと、練習を重ねるごとに楽しそうにリズムをとっていく様子をうれしく思いました。フェスティバルでは、白い手袋の小さな手と大きな手がキラキラと光を放ち、魔法使いのよう。娘が積極的になったのは、ベネズエラの「平原の魂」に自分を重ね、その歌詞の世界の表現を考えていった時期と重なっていたと思います。この活動で出会う多くの人たちに自分から動き、友達になれたことなどを報告してくれました。

エル・システムジャパンは事業成果を客観的に評価し、今後の活動に有効に反映させていくために、2013年度より外部評価調査を実施しています。2017年度は、慶應義塾大学SFC 研究所 社会イノベーション・ラボの玉村雅敏研究室が昨年度から調査を継続し、福島県相馬市および岩手県大槌町での事業がもたらす社会的なインパクトを明らかにするとともに、相馬市磯部小学校の教員や児童のインタビュー、保護者のアンケートなどをベースに、公教育支援における成果の言語化をはかりました。3年間にわたる調査は、2018年度末にまとめられる予定です。



監査報告書

監査報告書	
2018年5月28日	
一般社団法人エル・システムジャパン 代表理事 菊川 穂 隆	
監 査 人 矢崎 昇 生	
私は、2017年4月1日から2018年3月31日までの事業年度の理事の職務執行ならびに会計について監査をいたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。	
1 監査の方法及びその内容	
(1) 業務監査について、理事会に出席し、理事及び事務局から業務の内容を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて、業務の妥当性を検討しました。以上の方法に基づき、当該事業年度にかかる事業報告について検討いたしました。	
(2) 会計監査について、帳簿、ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表等の正確性を検討しました。	
2 監査意見	
(1) 事業報告等の監査結果	
一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。	
二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重要な事実は認められません。	
(2) 財務諸表等の監査結果	
財務諸表等は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。	
以上	

平成29年度 貸借対照表

平成30年3月31日現在[税込](単位:円)

科目	金額
資産の部	
流動資産	
現金・預金	
現金	13,731
ゆうちょ 当座	41,551
ゆうちょ 普通	512,009
三菱東京 UFJ 普通預金	899,880
現金・預金 計	1,467,171
売上債権	
未 収 金	4,330,276
売上債権 計	4,330,276
その他流動資産	
前払 費用	0
未収消費税等	0
その他流動資産 計	0
流動資産合計	5,797,447
固定資産	
有形固定資産	
楽器 類	6,366,200
減価償却累計額	△ 4,869,858
有形固定資産 計	1,496,342
無形固定資産	
ソフトウェア仮勘定	6,480,000
無形固定資産 計	6,480,000
投資その他の資産	
敷 金	968,800
投資その他の資産 計	968,800
固定資産合計	8,945,142
資産の部 合計	14,742,589

負債・正味財産の部

流動負債	
未 払 金	21,460,017
預 り 金	594,624
未収消費税等	355,600
流動負債 計	22,410,241
負債合計	22,410,241
正味財産	
前期繰越一般正味財産	603,096
前期繰越指定正味財産	9,057,679
前期繰越正味財産 計	9,660,775
当期一般正味財産増減額	△ 9,721,326
当期指定正味財産増減額	△ 7,607,101
当期正味財産増減額 計	△ 17,328,427
一般正味財産	△ 9,118,230
指定正味財産	1,450,578
正味財産 計	△ 7,667,652
正味財産合計	△ 7,667,652
負債・正味財産の部 合計	14,742,589

平成29年度 正味財産増減計算書

平成29年4月1日～平成30年3月31日(単位:円)

科目	事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費			
正会員受取会費	16,080	7,920	24,000
賛助会員受取会費	1,892,750	932,250	2,825,000
受取助成金等			
受取公的補助金振替額	22,556,000	0	22,556,000
受取民間助成金振替額	2,880,000	60,000	2,940,000
受取寄付金			
受取寄付金(個人)	5,483,687	609,298	6,092,985
受取寄付金(企業・団体等)	2,972,055	330,228	3,302,283
受取指定寄付金振替額	17,550,451	1,351,710	18,902,161
事業収益			
受託事業収益振替額	18,403,727	2,044,858	20,448,585
その他事業収益	286,870	31,874	318,744
雑収益	0	3,941	3,941
経常収益計	72,041,620	5,372,079	77,413,699
(2) 経常費用			
事業費			
現地事業費(相馬)計	40,063,782	0	40,063,782
現地事業費(大槌)計	12,751,778	0	12,751,778
現地事業費(駒ヶ根)計	5,722,517	0	5,722,517
現地事業費(東京)計	9,600,727	0	9,600,727
減価償却費	1,093,218	0	1,093,218
現地事業費計	69,232,022	0	69,232,022
広報資金調達事業費 計	8,158,609	0	8,158,609
事業費計	77,390,631	0	77,390,631
管理費計	0	9,744,394	9,744,394
経常費用計	77,390,631	9,744,394	87,135,025
当期経常増減額	-5,349,011	-4,372,315	-9,721,326
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
法人税	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-5,349,011	-4,372,315	-9,721,326
一般正味財産期首残高	132,270	470,826	603,096
一般正味財産期末残高	-5,216,741	-3,901,489	-9,118,230
II. 指定正味財産増減の部			
受取寄付、補助金等			
受取公的補助金	22,556,000	0	22,556,000
受取民間助成金	3,000,000	0	3,000,000
受取寄付金	10,433,300	801,760	11,235,060
受託事業収益	18,403,727	2,044,858	20,448,585
一般正味財産への振替額			
公的補助金の振替額	22,556,000	0	22,556,000
民間助成金の振替額	2,880,000	60,000	2,940,000
寄付金の振替額	17,550,451	1,351,710	18,902,161
受託事業収益の振替額	18,403,727	2,044,858	20,448,585
当期指定正味財産増減額	-6,997,151	-609,950	-7,607,101
指定正味財産期首残高	8,446,745	610,934	9,057,679
指定正味財産期末残高	1,449,594	984	1,450,578
III. 正味財産期末残高	-3,767,147	-3,900,505	-7,667,652

※ 財務諸表の全文は、エル・システムジャパンのホームページ(<http://www.elsistemajapan.org>)よりご覧いただけます。

年月	メディア名	記事名	掲載日
2017年1月	福島民報	小学合奏中村一(相馬)日本一	1月30日
2017年2月	福島民報	相馬の児童活躍	2月7日
	福島民報	こけし(中村一尨の懸垂幕について)	2月10日
	福島民友	Bookカフェ『世界でいちばん貧しくて美しいオーケストラ』書評	2月18日
2017年3月	毎日新聞	受賞曲 喜びの演奏披露	3月1日
	福島民報	「日本一」の演奏披露	3月2日
	福島民友相双版	子どもたち堂々演奏 相馬で合同コンサート	3月16日
	福島民報	弦楽の豊かな音色 相馬でチャリティー演奏会	3月18日
	岩手日報	ここで輝く(66)桜井うららさん(弦楽器講師)	3月24日
2017年4月	教育音楽3月号小学版	まるごとWATCH 第3回エル・システム子ども音楽祭 in 相馬	2月18日
	日テレNEWS24	JR 民営化30周年記念「エキコン」が復活	4月1日
	潮 4月号	【特別企画】震災六年一復興の針路 音楽で被災地の子どもを支える「エル・システム」	4月1日
	乗りものニュース	東京駅丸の内ドームで民営化の象徴「エキコン」10年ぶり開催 JR 東日本30周年記念で	4月1日
	読売新聞	LENS 被災地発 仮設に希望の音色	4月8日
	毎日新聞	ひと「被爆のマリア」を歌うソプラノ歌手 コロンえりかさん(37)	4月14日
	朝日新聞 群馬県版	福島の子どもオーケストラ描く	4月26日
2017年5月	TOKYO FM/JFM38局	クロノス・フライデー "LOVE&HOPE～ヒューマンケア・プロジェクト"	5月12日
2017年6月	岩手日報	【大槌】心弾む音楽や絵画 首都圏の芸術家らが催し	5月7日
	IBC 岩手放送	放課後の子どもたちへ「学びの場」 岩手県・大槌町	5月31日
	読売新聞東京版夕刊	ファイル(未来を運ぶオーケストラ)	6月3日
	長野日報	赤穂東小児童が体験 エル・システム事業	6月21日
	毎日新聞	日本で初、「手」で歌う 聴覚障害の子ら参加	6月21日
2017年7～9月	芸術BUZZvol20	(広告)エル・システムフェスティバル2017	6月25日
2017年8月	岩波書店 世界8月号	インタビュー『西東詩集』オーケストラの夢を語る ダニエル・バレンボイム	8月1日
	読売新聞夕刊	風景2017 藤倉大さん(作曲家)	8月5日
	日本経済新聞	文化「被曝のマリア」歌い継ぐ コロン えりか	8月28日
2017年9月	こどもの本9月号	私の新刊 響きを合わせてこそ 岩井光子	9月1日
	朝日新聞	眞子さま 笑顔くれた	9月2日
	朝日新聞	駒ヶ根女声コーラス78年の第1回大会	9月9日
	朝日新聞	(広告)エル・システム・フェスティバル2017	9月13日
	T JAPAN	This and That カルチャー"あれこれ"最新概説	9月25日
	朝日新聞	てんでんこ358 音楽の力28 南米の知恵	9月30日
2017年10月	読売新聞	学ぶ育む 楽器を貸与 音楽で希望	10月1日
	朝日新聞	てんでんこ359 音楽の力29 次世代へ	10月3日
	信濃毎日新聞	信州ワイド 駒ヶ根「エル・システム」練習成果披露	10月25日
	福島民報	異国の楽器、歌に大きな拍手	10月25日
	長野日報	駒ヶ根市が初の「エル・システム音楽祭」	10月25日
2017年10～12月	芸術BUZZ vol21	エル・システムフェスティバル2017	9月25日
2017年11月	月刊音楽現代11月号	東京芸術劇場で四度目になるエル・システムの祭典	10月13日
	T JAPAN	『つながれ心、つながれ力』東北レポート～ユイマール(絆)～工藤一郎	11月25日
2017年12月	教育音楽小学版12月号	SING A SONG 音楽は命の花である	11月17日
	教育音楽中学・高校版12月号	まるごとWATCH ガラ・コンサート《エル・システム・フェスティバル2017》	11月17日
	読売新聞大阪版	(広告)音楽の持つ力を信じて エリカ・コロノ	12月8日
2018年3月	産経新聞	そして、志す② 愛知から大槌へ復興の音 弦楽器指導者桜井うららさん(21)	3月8日
	月刊音楽現代3月号	『つながれ心、つながれ力』東北レポート～世界への報告～工藤一郎	2月15日
	AERA4月2日号	シリーズふくしまをつくる12 音楽の力	3月26日
	朝日新聞	(広告)シリーズ ふくしまをつくる12 音楽の力	3月31日



今年度も国内外のアーティストの方々に活動を支えていただき、
一流の芸術を子どもたちに届けるというエル・システムの理念を
実現することができました。心より御礼申し上げます。

阿部徳博(パーカッション)
飯尾久香(チェロ)
伊藤萌(トランペット)
伊藤恵(ピアノ/チェンバロ)
井上道義(指揮)
上杉理香(バイオリン)
上田真樹(作編曲)
碓井俊樹(ピアノ)
エディクソン・ルイス(コントラバス)
大澤愛衣子(バイオリン)
大鹿由希(バイオリン)
岡田大和(トロンボーン)
加藤洋郎(指揮)
蒲池愛(作曲)
後藤里帆(ビオラ)
コロネりか(ソプラノ)
斎藤舞(オーボエ)
阪永珠水(バイオリン)
櫻井伸泰(トランペット)
佐藤洋嗣(コントラバス)
千石進(クラリネット)
臺隆裕(トランペット)
竹森かほり(クラリネット)

田原綾子(ビオラ)
辻彩奈(バイオリン)
TSUCHIOTO(ジャズバンド)
堤剛(チェロ)
中川俊郎(作曲)
野間春美(ピアノ・チェレスタ)
芳賀文恵(フルート)
萩原麻未(ピアノ)
橋本顕一(ビオラ)
ハルモニア・フォンテ(室内楽)
東野珠実(笙)
フェローオーケストラ(オーケストラ)
福川伸陽(ホルン)
藤井裕樹(トロンボーン)
藤倉大(作曲)
本條秀慈郎(三味線)
持田富士美(ファゴット)
モリス・レイナ(クワトロ)
山本大(ホルン)
山本睦(オーボエ)
ラッキィ池田&彩木エリ(振付)
ララ・ソモス(ボーカルアンサンブル)
リチャード・エレジーノ(ビオラ)
＜敬称略、五十音順＞



©FESJ/2017/Mariko Tagashira



今年度も多くの個人、団体、企業の皆さまよりご支援をいただき、エル・システムジャパンの活動を実施することができました。皆さまのご厚意に心よりお礼申し上げます。

【あ】
アークヒルズクラブ
株式会社アイクロップス
青柳千尋
赤司展子
浅岡恵子
安里仁
芦屋国際中等教育学校コーラス部
一般社団法人ALIVE
株式会社アレイズ
Alex Ramirez
アンサンブル早島
井上智治
岩崎慎一郎
Water Dragon Foundation
英治出版みらい基金
株式会社SMBC 信託銀行
LVMH モエ ヘネシー・ルイヴィトン・ジャパン株式会社
オアシス楽器店
大谷雅子
大槌町
大堀相馬焼松永陶器店
小原剛
オリエンタルモーター株式会社
オルケーストル・ウリープカ
【か】
ガイア株式会社
株式会社KAJIMOTO
川原直
河北麻友子
キッコーマン株式会社
gooddo 株式会社
株式会社東北新社／クラシカ・ジャパン
栗山明奈
Global Giving
黒坂三重
慶應義塾大学SFC 研究所
小堀月浦
駒ヶ根市
小山道男
コロンえりか
【き】
在日イタリア大使館
佐伯栄一

佐伯律子
坂之上洋子
佐藤真
株式会社ジェイアール東日本企画
ジオアーステクノ株式会社
塩田真弓
株式会社シグマクシス
芝崎智子
清水一美
清水道子
上越歌ごころの会(さくら草・のぎく)
真如苑
株式会社 Speee
Seiko Ishikawa
聖心会
相馬市
相馬商工会議所
株式会社ソノリテ
【た】
ダイアローグ・イン・ザ・ダーク
大徳寺龍光院
ダウ・ケミカル日本株式会社
田頭真理子
立谷秀清
田中果樹園
駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館
津田大介
電通古本市の会
一般社団法人東京倶楽部
公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場)
社会福祉法人トット基金
【な】
那覇ジュニアオーケストラ
仁藤里香
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本・ラテンアメリカ婦人協会
日本ろう者劇団
日本労働組合総連合会福島県連合会
【は】
萩原麻未
株式会社白寿生科学研究所
早野龍五
原浩之
株式会社バリューブックス

ハルモニア・フォンテ
株式会社 HANDSON
株式会社ビジュアルコミュニケーションズ
廣野孝男
フェローオーケストラ
福羽泰紀
舟越一郎(funaco design studio)
フラワーマダムの会(駐日大使・大使夫人合唱団)
株式会社 Plan Do See
文化庁
株式会社ボストン・コンサルティング・グループ
堀主知ロバート
【ま】
松木真知子
三尾徹
三井不動産株式会社
水野真里子
ミネ・シュティムメ
株式会社メディアネットワークス
本江博子
守口毅
文部科学省
【や】
矢崎芽生
安刈聖司
ヤファー株式会社
山森純子
山田玲子
吉田 徹
【わ】
若林直子

<敬称略、五十音順>

2017年4月1日～2018年3月31日の間に原則5万円以上のご寄付、及びボランティアで各種技術協力を下さった個人、企業、法人のお名前を、ご本人の了承を得た上で掲載しております。

楽器を
寄付してくださった
皆さま

個人、企業の皆さまより楽器を楽器をご寄付いただき、
エル・システマジャパンの活動を実施することができました。
皆さまのご厚意に心よりお礼申し上げます。

- 【あ】
安里仁
Aniela Rankin / UBS 証券株式会社
井上裕子
井村嘉子
大山槻子
岡田直子
小川千夏
- 【か】
神竹寿重子
川北千帆
川鍋剛
株式会社コト
- 【さ】
島村楽器株式会社
シレーナ株式会社
杉田実子
- 【た】
田野浩美
- 【は】
細野正洋
- 【ま】
宮崎真理
村山淳
本山悦子
- 【や】
山森純子
弓削りうこ
ユリ.M
<敬称略、五十音順>



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

エル・システマジャパンは、HP、Facebook、
Twitterを通じて、活動のアップデートを
随時ご報告しています。こちらもぜひご覧
ください。

ホームページ
www.elsistemajapan.org

facebook
 [elsistemajapan](https://www.facebook.com/elsistemajapan)
<https://www.facebook.com/elsistemajapan>

twitter
 [@ElSistemaJapan](https://twitter.com/ElSistemaJapan)
<https://twitter.com/ElSistemaJapan>

エル・システマジャパン活動報告書2017

発行	一般社団法人 エル・システマジャパン 東京都千代田区神田小川町3-24 大栄堂第2ビル3F tel 03-6280-6624 fax 03-6280-6634
発行日	2018年10月
デザイン協力	舟越 一郎 (funaco design studio)
構成・文	仲川美穂子



